

2014年3月5日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

共催（公財）日本体育協会

（公財）日本オリンピック委員会

「2013年度 ミズノ スポーツメントール賞」受賞者決定

（公財）ミズノスポーツ振興財団では、（公財）日本体育協会、（公財）日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月5日（水）、グランドプリンスホテル高輪で2013年度選考委員会を開催し、受賞者を以下の通り決定いたしました。

なおこの「ミズノ スポーツメントール賞」の表彰式は、4月22日（火）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】（トロフィー、副賞200万円）

加藤 裕之 氏（体操 コナミ体操競技部 監督）

【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】（トロフィー、副賞各100万円）

梅原 孝之 氏（水泳 JSS毛呂山）

笠原 良治 氏（宮城県 スポーツ少年団認定育成員（バスケットボール））

藤木 弘美 氏（岡山県 スポーツ少年団認定員（スキー））

【ミズノ スポーツメントール賞】（トロフィー、副賞各50万円）

永山 忠幸 氏（陸上競技 ワコール女子陸上競技部 ヘッドコーチ）

香川 政夫 氏（空手 全日本空手道連盟 強化委員長）

FUJI ROY MIKI 氏（カーリング 日本女子代表チーム コーチ）

杉本 恵子 氏（兵庫県 上級コーチ（なぎなた））

籠島 忠 氏（奈良県 スポーツドクター）

魚住 俊治 氏（福岡県 指導員（ラグビーフットボール））

平川 信洋 氏（佐賀県 アスレティックトレーナー）

詳細は別記の通りです。

記

名 称 : 2013年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に努めた指導者およびその周辺の指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の顕彰

選考委員 : 委員長 竹田 恆和 ((公財)日本オリンピック委員会 会長)
委員 森 正博 ((公財)日本体育協会 副会長)
" 監物 永三 ((公財)日本体育協会 副会長)
" 泉 正文 ((公財)日本体育協会 常務理事)
" 橋本 聖子 ((公財)日本オリンピック委員会 常務理事)
" 尾崎 正則 ((公財)日本オリンピック委員会 理事)
" 上治 丈太郎 ((公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長)
※順不同

対象者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者
受賞者及び選考理由 :

加藤 裕之 (かとう ひろゆき) 氏 50歳 (1964.2.8生)
(体操 コナミ体操競技部 監督)

2008北京オリンピック個人総合2位、2012ロンドンオリンピック個人総合1位、2009、2010、2011、2013世界選手権個人総合4連覇を達成した内村航平選手を現在指導。2011年3月日本体育大学を卒業後に内村選手を受け入れ、練習環境が変わった中でもその競技力を更に向上させたことに対する功績が顕著である。

【指導した主な選手】

内村航平	2013ベルギー世界選手権	個人総合1位
	2008北京オリンピック	個人総合2位
	2012ロンドンオリンピック	個人総合1位
山室光史	2012ロンドンオリンピック	男子団体2位
田中佑典	2012ロンドンオリンピック	男子団体2位
沖口 誠	2008北京オリンピック	男子団体2位

梅原 孝之 (うめはら たかゆき) 氏 43歳 (1970.7.17生)

(水泳 JSS毛呂山)

大学卒業から現在まで、多くのオリンピック選手を輩出したスイミングクラブ「JSS」にて指導にあたり、基本に忠実でかつきめ細かな指導により、数々の優秀な選手を発掘・育成してきた。その中でも瀬戸大也選手は全くの無名だった小学校5年生から現在に至るまで、一貫して同氏が指導にあたりその才能を開花させ、2013バルセロナ世界選手権の400m個人メドレーにおいて、同種目では日本人初の金メダルを獲得した。また、同氏は日本水泳連盟の諸事業にも非常に理解があり、各種国際大会では日本代表コーチとして帯同し、所属選手のみならず日本代表選手全員の指導にあたるなど日本競泳界発展のためにも尽力している。

【指導した主な選手】

瀬戸大也 2013バルセロナ世界選手権 男子400m個人メドレー1位

笠原 良治（かさはら りょうじ）氏 58歳（1955.4.5生）

（宮城県 スポーツ少年団認定育成員（バスケットボール））

1977年から、公民館スポーツ事業である「ミニバスケットボール教室」の指導者として、小学生男女の指導に関わり、週一回の指導を2年間続けながら、岩出山ジュニアバスケットボールスポーツ少年団の立ち上げと、町スポーツ少年団本部の設立に参画した。

現在も市スポーツ少年団本部の事務局運営や指導者の育成に励む傍ら、単位スポーツ少年団指導者として団の運営と共に、生涯スポーツの環境整備と技術力・チーム力の向上のため、地域における「小・中学生の一貫指導」を実践し、これまで、県大会優勝など多くの成果、実績を残している。

藤木 弘美（ふじき ひろみ）氏 57歳（1957.1.21生）

（岡山県 スポーツ少年団認定員（スキー））

競技活動引退後、職務に励む傍ら、北欧での競技経験を活かし、生涯スポーツとして、高齢者から児童までを対象とした「歩くスキー教室」を開催し、冬季の運動不足の解消や雪遊び（竹スキー、雪合戦、スキーでのボールゲームなど）の体験の中から、雪の厳しさと楽しさを伝えている。

また、26年の長きにわたり、岡山県北の小・中学校へ、ノルディック競技の指導に出向き、競技の基本や楽しさを伝えている。さらに競技を通じ、青少年の健全育成の一貫として、地元の総合型地域スポーツクラブと連携をし、年間を通し教室を開催。シーズンオフには山登り、キャンプ、冬季には毎週スキー教室を開設するなど、同競技の普及活動に尽力している。

永山 忠幸（ながやま ただゆき）氏 54歳（1959.11.29生）

（陸上競技 ワコーレ女子陸上競技部 ヘッドコーチ）

2013モスクワ世界陸上選手権で、女子マラソンで銅メダリストの福士加代子選手の指導を行なっている。福士選手は、2004アテネオリンピックから2012ロンドンオリンピックまで、5,000mや10,000mのトラック種目で代表になるなど活躍をした。女子長距離選手の指導者としての手腕は高く評価されている。

【指導した主な選手】

福士 加代子 2013モスクワ世界選手権 女子マラソン 3位
2012ロンドンオリンピック 女子10,000m 10位
2008北京オリンピック 女子10,000m 11位／ 女子5,000m 10位
2006広州アジア大会 女子10,000m 1位
2004アテネオリンピック 女子10,000m 26位

香川 政夫（かがわ まさお）氏 58歳（1955.6.8生）

（全日本空手道連盟 強化委員長）

1983年に帝京大学師範に就任後、競技者生活を続ける傍ら指導者としても研さんに励み、1998年には帝京大学を全国大学選手権大会優勝へ導いた。その後、ナショナルチームコーチとして永木伸児選手や佐藤祐香選手、小林実希選手など、世界トップクラスの選手を数多く育成し、その卓越した指導力は広く認められている。2012年に全日本チーム監督として第21回空手道選手権大会に参加し、金4、銀1、銅6のメダルを獲得した。

【指導した主な選手】

小林 実希 2013コンバットゲームズ 女子個人組手55kg級 1位

染谷 香予 2013 ワールドゲームズ 女子個人組手 68kg 級 1 位
植草 歩 2013 ワールドゲームズ 女子個人組手 68kg 超級 1 位

FUJI ROY MIKI (ふじ ろい みき) 氏 72 歳 (1941. 9. 20 生)

(カーリング 日本女子代表チーム コーチ)

長年にわたり、カーリング指導者として数多くの選手の育成・強化に取組み、日本カーリング界のレベル向上に貢献した。2002 ソルトレークシティーオリンピックから 2014 ソチオリンピックまで 4 大会連続オリンピックの日本代表チームのコーチを務め、日本を代表するカーリング選手の育成に尽力している。代表チームの指導にあたる傍ら、各地域のジュニアチームへの指導やアドバイスを積極的に行い、日本のカーリング普及にも大きく貢献した。熱心で真摯に取り組む姿勢と、温厚な性格で選手からの信頼は厚く、各地域の指導者、カーリング関係者から広く慕われている。

【指導した主な選手】

日本女子チーム	2014 ソチオリンピック	カーリング女子	5 位
	2010 バンクーバーオリンピック	カーリング女子	8 位
	2006 トリノオリンピック	カーリング女子	7 位
	2002 ソルトレークシティーオリンピック	カーリング女子	8 位

杉本 恵子 (すぎもと けいこ) 氏 65 歳 (1949. 1. 12 生)

(兵庫県 上級コーチ (なぎなた))

1979 年より明石市錦城コミュニティセンターにて、また 1986 年より加古川市至誠館にて、幼少世代から 80 歳代までを対象としてなぎなた競技の指導を努める。指導においては、それぞれの対象に合わせ創意工夫をした指導法を用いて、正しいなぎなたを楽しく、長く、健康に続けることを目標とした活動に取り組んでいる。

現在、兵庫県なぎなた連盟理事長、明石市なぎなた協会理事長として、会員の協力のもと組織の充実・発展のためにも尽力している。

籠島 忠 (かごしま ただし) 氏 70 歳 (1943. 10. 30 生)

(奈良県 スポーツドクター)

1985 年より奈良県のスポーツ医・科学推進事業に携わり、競技スポーツ・地域スポーツの振興に貢献し、その間、国体選手のメディカルチェック、スポーツ選手の医事相談、国体への帯同ドクターなど諸事業に中心的存在として関わり、奈良県スポーツ医・科学の発展に大きく寄与した。奈良県のスポーツドクターの先駆者として後進の指導及び人材育成に尽力し、11 年間にわたりスポーツ医・科学専門医委員会委員長ならびにスポーツ医・科学研究会会長として奈良県スポーツ医・科学分野の指導的立場にあたる。

魚住 俊治 (うおずみ としはる) 氏 67 歳 (1946. 9. 3 生)

(福岡県 指導員 (ラグビーフットボール))

企業クラブチームでの現役引退後、ラグビーの普及活動に力を注ぎ、「かしいヤングラグーズ」を 1985 年に創設。幼稚園から中学生まで、ラグビーをプレーするクラブチームとして、現在は 200 名以上が在籍する。中学生 (ジュニア) チームが、「太陽生命カップ 2012 第 3 回全国中学生ラグビーフットボール大会」に出場し、見事優勝するなど名門チームに育て上げた。

また、同氏はラグビー部が無い高校に進学した子どもたちのために、2001 年に「福岡ユ

ース」を設立。そのチームより 2011 年には 20 歳以下の日本代表候補選手及びトップリーグの選手を生み出している。

今年度から福岡市スポーツ協会の理事に就任し、ラグビー以外のスポーツの普及・振興にも積極的に取り組んでいる。

平川 信洋（ひらかわ のぶひろ）氏 52 歳（1961.4.5 生）

（佐賀県 アスレティックトレーナー）

長年にわたりリハビリ現場に携わり、学術・臨床・教育活動を通じ、医療現場とスポーツ現場の架け橋的存在として活躍している。特に 2002 年からは、佐賀県スポーツ医科学委員として、200 回を超える講演等を通じ、トレーナーの啓発活動やスポーツ指導者及び選手の障害予防と健全育成に取り組むなど、佐賀県におけるスポーツ医・科学を支えてきた。

国民体育大会では 10 年以上にわたり、アスレティックトレーナーとして、佐賀県選手団をサポートし続け、トレーナーの育成においても、知識・技術・人間性を養うことに力を入れている。若いトレーナーからの信頼も厚く、トレーナー部会・協会において高いリーダーシップを発揮し、佐賀県のスポーツ医・科学のサポートに対して献身的に活動を行っている。

※ 受賞者の方々の年齢は 2014 年 3 月 5 日現在のものです。

以上

（お問合せ先）

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局	内橋	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ株式会社 広報宣伝部 東京広報課	木水	TEL. 03 (3233) 7037